



市川市議会議員  
浦安市川市民病院  
議会議員  
**日本共産党**

# 谷藤利子の市政報告

自宅 398-5948、メールアドレス: [tanifuji5948@hotmail.com](mailto:tanifuji5948@hotmail.com) 05年1月15日発行 NO28

無料法律相談

2月10日(木)  
市川市役所内、日本共産党控入室にて。予約制です 334  
- 1111(内線)4591

## 昨年12月市議会の一般質問から

# 三番瀬をラムサール条約登録地に

国際的に重要な湿地を保全するためのラムサール条約登録会議が今年の秋にアフリカのウガンダで行われます。

ラムサール条約推進の背景には、この2000年で埋め立て等の開発により、地球上の湿地の約半分が破壊されたといい、湿地喪失の歴史があります。特にアメリカ力ではかつて日本の国土の4倍以上の湿地が存在しており、その53%が消失。日本でも50数年間に約半分の湿地が失われたといわれています。湿地の豊かな環境とその

### 環境省、あとは地元の合意だけ

メリット(左の囲み参照)からも、地球的な規模での湿地保全の条約が必要になったのです。

環境省は日本での新たな登録地を選定するために、昨年9月2日に検討会を持ち、基準を満たす湿地54箇所を選定しましたが、三番瀬はその筆頭に上げられました。同省はさらに、リストを15箇所ぐらいに絞り込み、日本の登録地を現在の13箇所から最低でも9箇所は増やし

たいとしています。

谷藤市議は昨年十一月、環境省に赴き、三番瀬登録に向けて今何が必要かと質問しました。これに対し同省は、三番瀬は条約登録基準である2000羽以上の水鳥の生息、生物多様性を維持するために重要な種類の生物の生息、絶滅の恐れのある種を支えているなどの基準を満たしており、登録条件である国設鳥獣保護区にも指定されている。あとは地元の間と市、漁業関係者の合意が必要。今年3月までに候補地を絞り込みたいということでした。

### 県や抵抗の強い漁業関係者に働きかけを

十二月市議会で谷藤市議は、市川市の行徳臨海部基本構想や千葉県の三番瀬再生計画案でも、三番瀬のラムサール条約登録を位置づけしている。環境省もあとは地元の態度如何だと言っている。3月までの絞り込みに関わり、地元市として県や抵抗が強い漁業にも働きかけるようにと求めました。

これに対し市は、市川市も三番瀬のラムサール条約登録を環境省に働きかけてきた。今は、これから始まる三番瀬の再生会議の動向にゆだねたい、というものでした。

ラムサール条約登録は漁業振興になるにもかかわら



ず、漁業関係者は抵抗が大きく、三月までの千葉県としての意志表示は難しくなっています。改めて、市民的な運動の大きさが求められています。一緒に、登録に向けて力を合わせましょう。

### 市有地を自然再生の場に

千葉県は当面の最優先課題の一つとして塩浜護岸の改修を行うとしています。三番瀬再生計画案では、護岸の形状について、市川市有地の一部を湿地に戻す自然再生を提案しています。

谷藤市議は、三番瀬のラムサール条約と合わせ、市有地は環境学習施設も含めて全国にも例の無い自然再生の場として活用し、大いに環境と文化水準の高い市川市になるうではないかと求めました。

これに対し市は、行徳近郊緑地への海水交換をよくするために市有地を開削して川のようにすることや自然環境学習施設については考えているが、護岸を陸側に削って湿地をつくる自然再生については考えていないと答弁がありました。

## 市民団体、ラムサール条約連続学習と署名活動がんばってます

市川三番瀬を守る会は、加盟している三番瀬署名ネットワークのみなさんといっしょに、三番瀬の埋め立てを阻止した力を今度はラムサール条約で発揮しようがんばっています。

昨年は日本湿地ネットワークや日本自然保護基金等から講師を招いて、ラムサール条約についての連続学習を行い、これを力に市川、船橋を拠点に署名宣伝活動に励んでいます。

署名は10万人を目標にして、すでに2万人分は千葉県に提出しています。谷藤市議も学習会や署名活動に参加しています。みなさんもぜひご協力をおねがいします。



国府台にある和洋女子大を会場に連続学習

# 浦安市川市民病院議会 アンケートに寄せられた声とりあげ、改善を要求



昨年十二月一日、浦安市川市民病院議会が開かれました。

病院議会で谷藤利子市議は、日本共産党行徳後援会のみなさんと取り組んできた市民病院を利用しやすくするためのアンケートをもとに、改善を強く求めました。

アンケートに寄せられた声をいくつか紹介したいと思います。

## （患者の立場から）

「友人が癌で入院中に、本人にも家族にも、もう使う薬はないと何度も言われ、生きる希望を失ってしまつた。患者と家族の立場に立って接して欲しい。」  
「4年ほど前に足のしびれがひどくて近くの個人病院に行ったら市民病院でMRIをとってくださると言われた。市民病院に行くところに行つてくれといわれ、診察もせずMRI

の予約だけで帰された。翌日は歩くこともできなくなり、大病院に緊急入院して手術することになった。」  
「外反母趾で歩くこともできなくなり行つたが、診察もせずにもう手遅れだと言われた。仕方なく他の個人病院に行ったら、痛いでしょうねと手当てをしてくれた。せめて共感してくれるだけでもうれしいのに残念だ。」

## （お医者さんから）

「市民病院は医者が苦勞しいがあるところにしてほしい。病院のポリシイをはつきりさせて、研修をきちんと積んで、皆一丸となつてがんばる環境作りをしないと行かない。市川市民にとっては市民病院はなくてはならない病院。浦安には順天堂があり、市民病院への要求には市川と温度差があるだろう。市民病院のアピールをもつとして地域に喜ばれる、職員が働き甲斐のある病院にすることだ。」

## （匿名の方から）

「医療事故においても、患者対応について、看護師としての最低の指導と教育が不徹底だと思う。個々の医師や看護師への不満や投書が寄せられたりするが、その背景には病院としての姿勢や教育の不備があるのでないでしょうか。」

## 施設改善について

「入院患者と面会する際に部屋にもう少しゆとりがあるといい。」  
「市民病院は暗い、汚い、狭いイメージがある。科がどこにあるかもとわかりやすくしてほしい。」  
「産婦人科がカーテンで仕切られているだけで中の声が丸聞こえ。プライバシーがない。」  
「患者、見舞い客がほつとできるような場所、喫茶店のような軽食もできる場所がほしい。せめて売店がもつとわかりやすいところにあつて欲しい。」  
「小児病棟は床が傾いている。配膳車も動いてしまふ。」  
「空調が個々に調整できず困っている。」  
「トイレがいくつか改修されたが、使いやすさや安全性が確保されていない。」

信頼される病院をめざしてさらなる努力を

谷藤市議は、「市民病院がめざす地域医療、さらには小児科、救急などの不採算医療は、まさに病院職員の体制強化や熱意と地域との信頼関係なしにはできない仕事である。病院がそのために日夜努力されていることは理解している。しかし、残念ながら、アンケート活動において、長年の病院利用者や病院関係者から、あるいは一般の医師の方からも、たくさ



んの改善要望が寄せられている。市民に信頼される公立病院をめざしてさらなる努力と改善をしてほしい」として、次の内容で求めました。

市民病院のめざすべき医療について、医師、看護師、職員全体への徹底あるいは現場でのそれぞれの連携などについて、研修と現場の意見がきちんと反映される職場環境をつくる努力をもつとすべきではないか。

また、建替計画はあるが、それを待たずして主に危険な箇所の施設修繕を早急に行うべきではないか。

これに対し、病院からは、「最もな指摘であり、病院のご意見箱にも同様のたくさんの方の意見をいただいている。病院がめざす医療について、職員の間でももつと研修を積み、地域に信頼される医療のために努力する。また老朽箇所については、予算をとつてできるだけ必要な改修をすすめていく」と答弁がありました。

## 日本共産党行徳後援会、市政報告会や施設めぐりなど活発に



12月5日 ちひろ美術館にて

日本共産党行徳後援会では、昨年未の行事として十一月に市政報告会、十二月には施設めぐりを行いました。

市政報告会では、谷藤利子市議から、行徳地域の今後の公共施設増設にむけた取り組みについて、参加者からはコミュニティバス運行や駅前放置自転車問題のこれまでのとりくみについて、また、介護現場で働いている参加者からは、介護現場の人手不足の問題について報告があり、意見交換しました。

施設めぐりは、東京練馬区石神井のちひろ美術館と都立石神井公園に行きました。石神井公園はもみじの紅葉真っ盛り、池と紅葉の周辺を散策してみなすつかり生き返つた様子でした。

これからも良く学び、自然と文化に親しみ、楽しく元気に、住みよい行徳のまちづくりを考えて行きましよう。